

おちたかおフォーラム第78回朝食会

この国の経営戦略：危機感と戦略と課題

0. はじめに

(1) “おちたかおフォーラム” 2019. 09. 25 講演&質疑

- ◎ “初心を支えに、国家戦略を提案する時機”
- ① 「この国の改革のスピードは異様に遅い」
- ② 「国家の存続に関する危機感がない」
- ③ 「この統治機構では、この国の経営はムリ」
- ④ 「衰退のスピード管理」
- ⑤ 「ボトムアップからトップダウンに、政治家と国民の情報の流れを逆にする」
- ⑥ 「戦略をつくる人と、それを受止める感覚を持つ国民が必要」

(2) “衆議院議員 4 年経験して” 2010. 02. 01 メモ (2011. 08. 06 at 政策専門家勉強会講演)

「この国は、いくら国民の意見を反映して良い政策ができたとしても、決して良くならない。なぜなら、この国は構造的に悪くなることになっていて、悪くなり方を少し変えることでしかないから。しかし、現状では、実は、国民の意見を反映した政策を実現すると、国は早く悪くなる。それはなぜかといえば、政治が国民に適切な選択肢を提示していないから。」

(関心／機関)

(3) “時代の転換点”

- ①人口減少少子高齢化 …… 初めての経験
- ②第四次産業革命 …… 明治期に経験
- ③米中覇権争い …… 20 世紀前半に発生

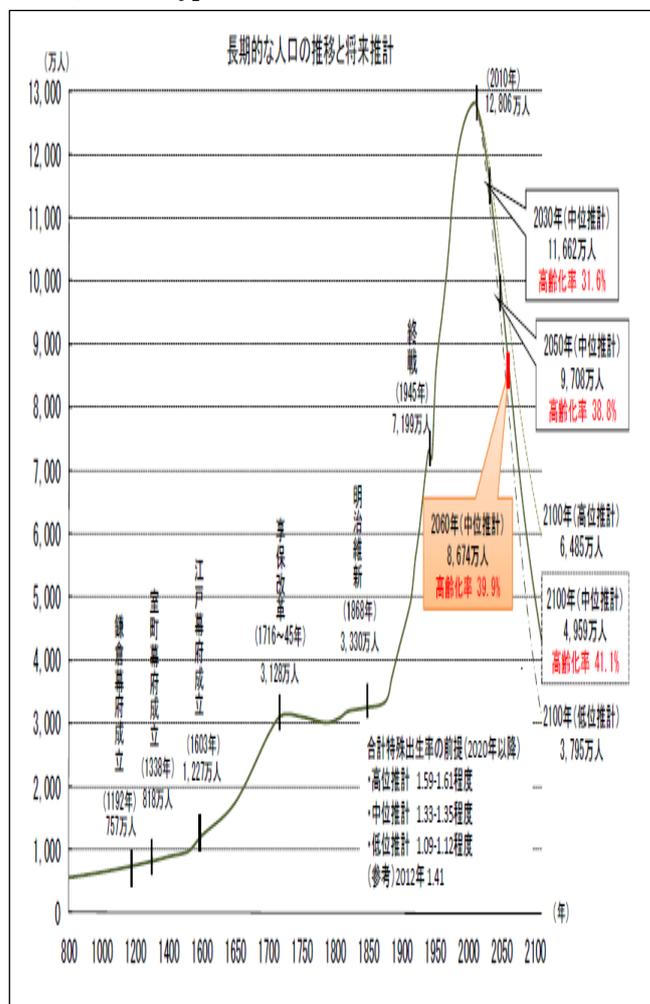
[A]数十年あるいは百年に一度

[B]手本のない領域／人類未体験ゾーン

(4) 政治家の役割

- ①政治家・おちたかお と 有権者・越智隆雄
- ②理想の政治家論 (2000 年～)
- ③日本政治外交史
 - 1) 歴史は、未来に生きる人が、確定するもの
 - 2) 未来から現在を見ながら、現在を生き、歴史を刻む
 - 3) “歴史学” の政治史と “政治学” の政治史
- ④経済学・経営学+政治学(・法学)
- ⑤国家経営戦略／スーパーマクロ政策／統治システム
- ⑥国家経営目標... 持続可能性 1)環境 2)財政 3)人口...

(5) “アベノミクス” の論理と課題



1. 危機感

(1) 時代感覚

- ① “第三の大改革” 「UBUDAS」2006/4
- ・「私が代議士になった理由は、ただひとつである。
『次の時代』をつくるためである。
『明治維新、戦後改革に次ぐ、第三の大改革が必要だ』
という人がいるが、私はまさにその通りだと思っている。」

- ② “サード・デモクラシー” 「UBUDAS」2006/4
- ・「明治維新は、維新の立役者によって実現した。
戦後改革は占領軍と日本の官僚組織中心に実行された。
“次の時代”は誰が実現するのか。それは、国民自身ではないか。
私たちの未来のために、私たち国民が自らの責任をもって変えていくことが、真の国民主権」

(2) 課題認識

① 将来展望

- ・“いま世界一幸せで、将来世界一不安な国” 異業種交流会講演 2009/10
「実はいま大切なことは、日本は“いま世界一幸せで、将来世界一不安な国”その不安を取り除くこと
ヒ…人口減少・高齢化/モ…食料・エネルギー・環境/カネ…経済力・財政・社会保障/安全…国家安保」
「政治家の仕事 “不利益の分配” “我慢の説得”」

② 人口減少

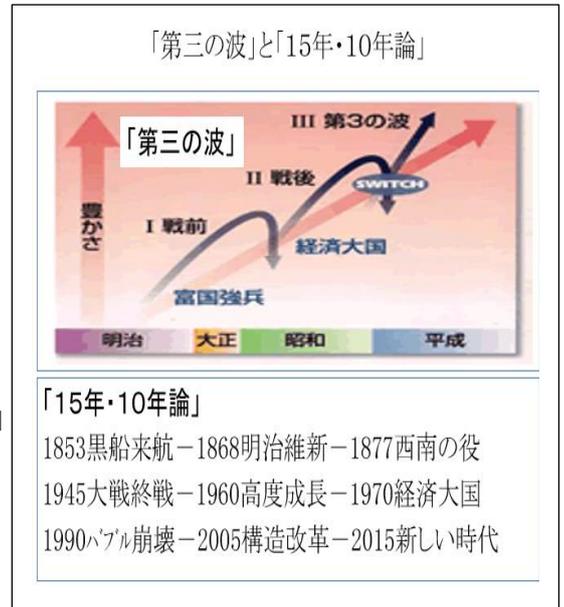
- ・“極大値後の国家百年の計 Post-Max-Century Nation Design” 大妻学院議論 2010/6
「人口減少・経済縮小をベースラインに、新しい国家経営と国民生活のあり方を構想し提案し実現する」
- ・“人口ジェットコースター” 大納会挨拶 2010/12
「祖母～娘 1900年 45 百万人→130 百万人→2100年 45 百万人」

③ 経済規模

- ・“おもてなし日本” ←輸出大国 女性の会講演 2010/10
「日本人のライフスタイルを売る 2020年 3000 万人」
- ・“20 世紀の経済大国” 政策専門家勉強会講演 2011/8
「①世界第二の経済大国 (1968～2009) ②22 世紀 GDP1%国家」

④ 適応能力

- ・“中途半端規模国” 政策専門家勉強会講演 2011/8
「①グローバルスタンダードを導入しない ②グローバルスタンダードにならない」



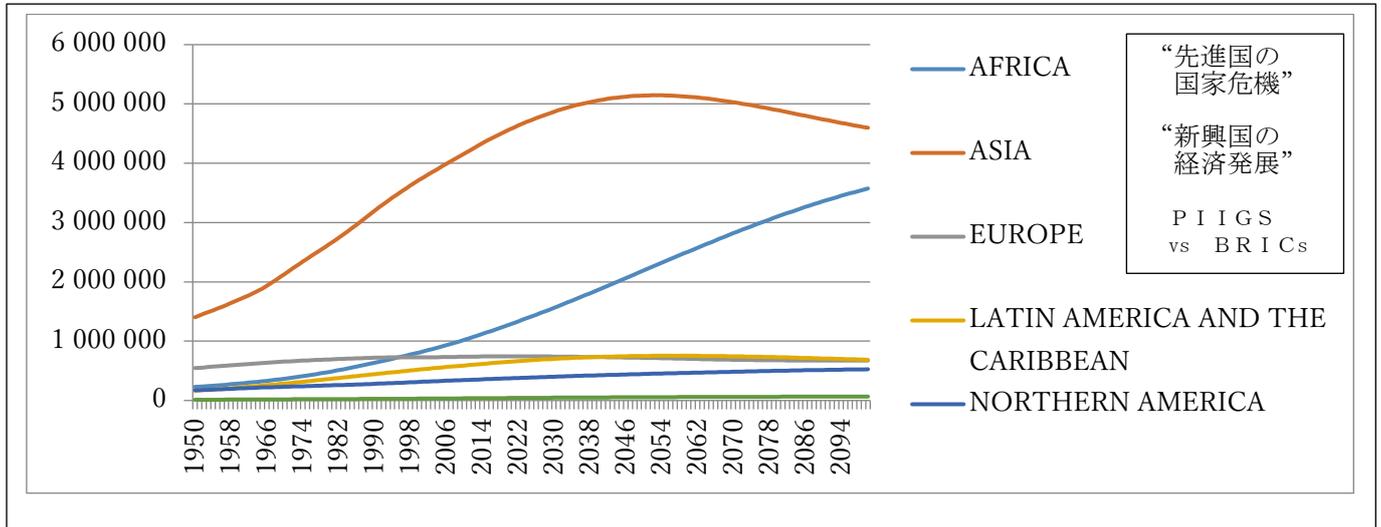
2. 政策の方向性

(1) 政策づくりの姿勢... “越智家の事件簿”

2010年～2011年

- ① 4つの目玉で200年 … 超長期
- ② 檜町公園のボール … 論理/メカニズム
- ③ I K E Aのカatalog … 完成形
- ④ 真実を語れ夢を語れ … 道筋

おちたかお政策研究会勉強会講演 2012/2



(2) メカニズムの認識

おちたかお政策研究会等勉強会講演 2012/2～3

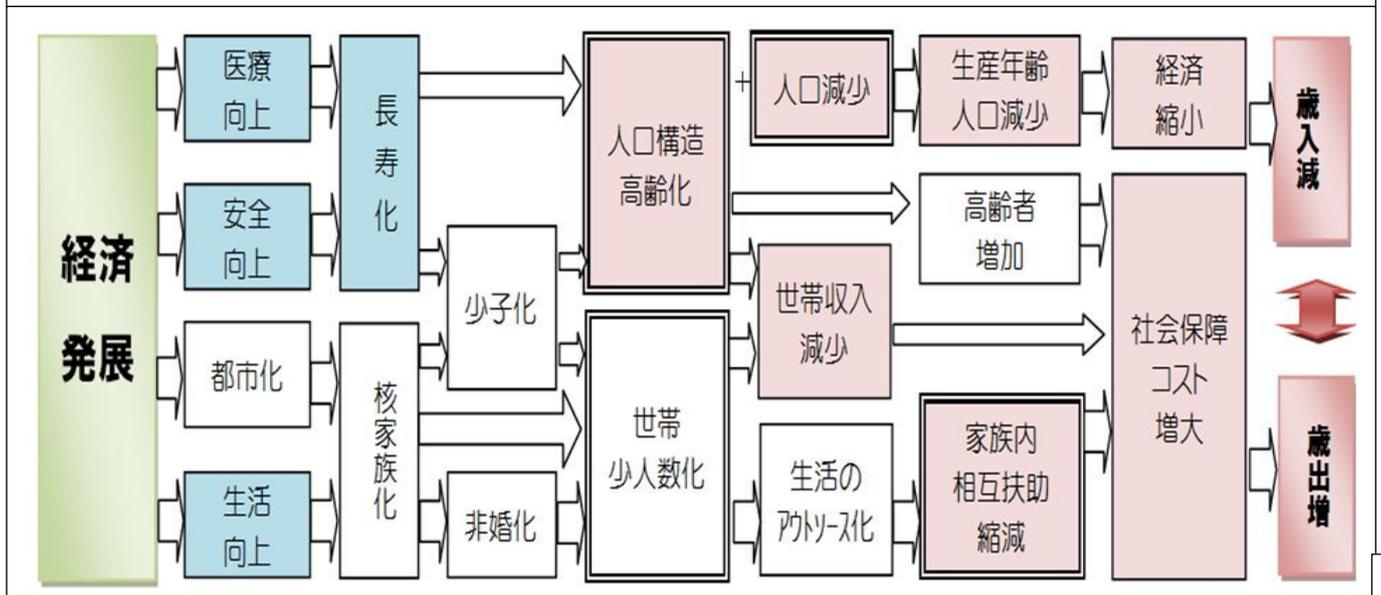
人口減少高齢化
「人口転換」
社会発展の成果

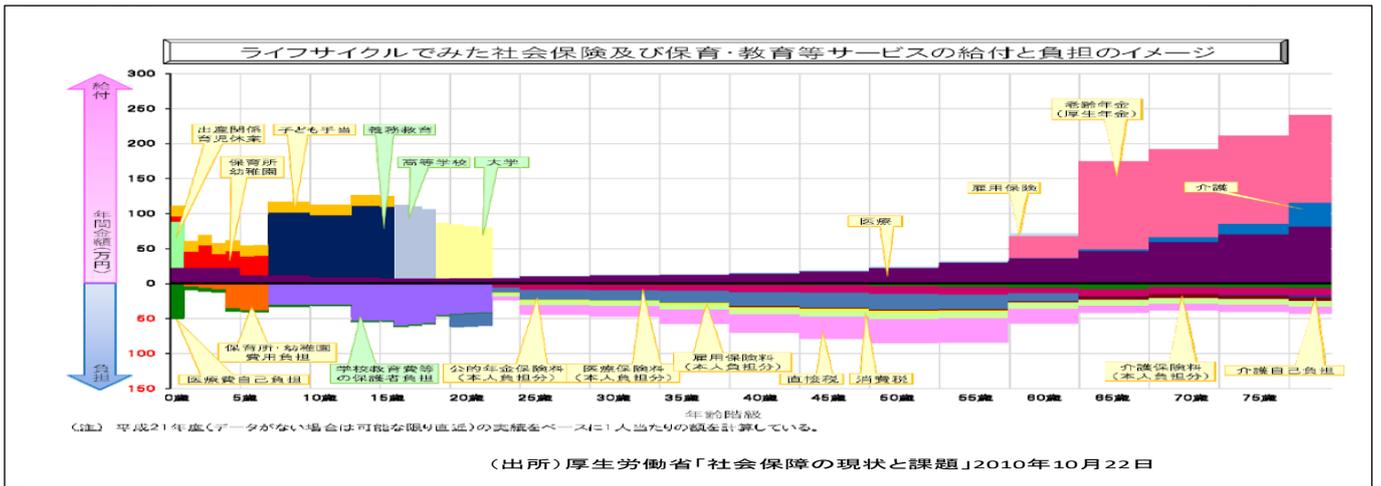
出所: 国立社会保障・人口問題研究所 金子隆一 作成資料

グローバル化
「すごろく型」
200年がかりの技術移転

出所: コールドマックス証券会社データより作成

政治不信
「建国の父」
求心力の盛衰





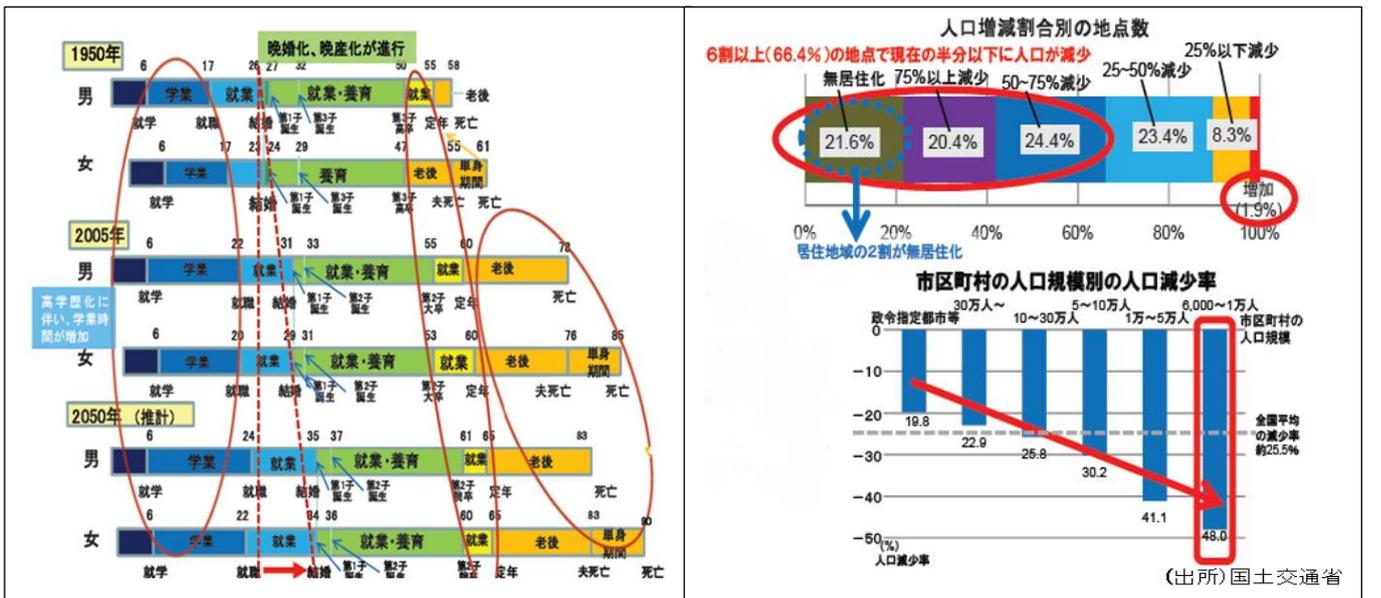
※事態認識

政策専門家勉強会講演 2011/8

「人口減少は人類社会の一つの到達点である。いま私たちは成熟社会を創り上げるための産みの苦しみの中にある。」
 「日本の場合、発展のスピードが早かったため、第一に人口増加のスピードが早く、第二に少子高齢化への対応を怠った。そのため、欧州などの先進諸国に比べると解決すべき問題は大きい」

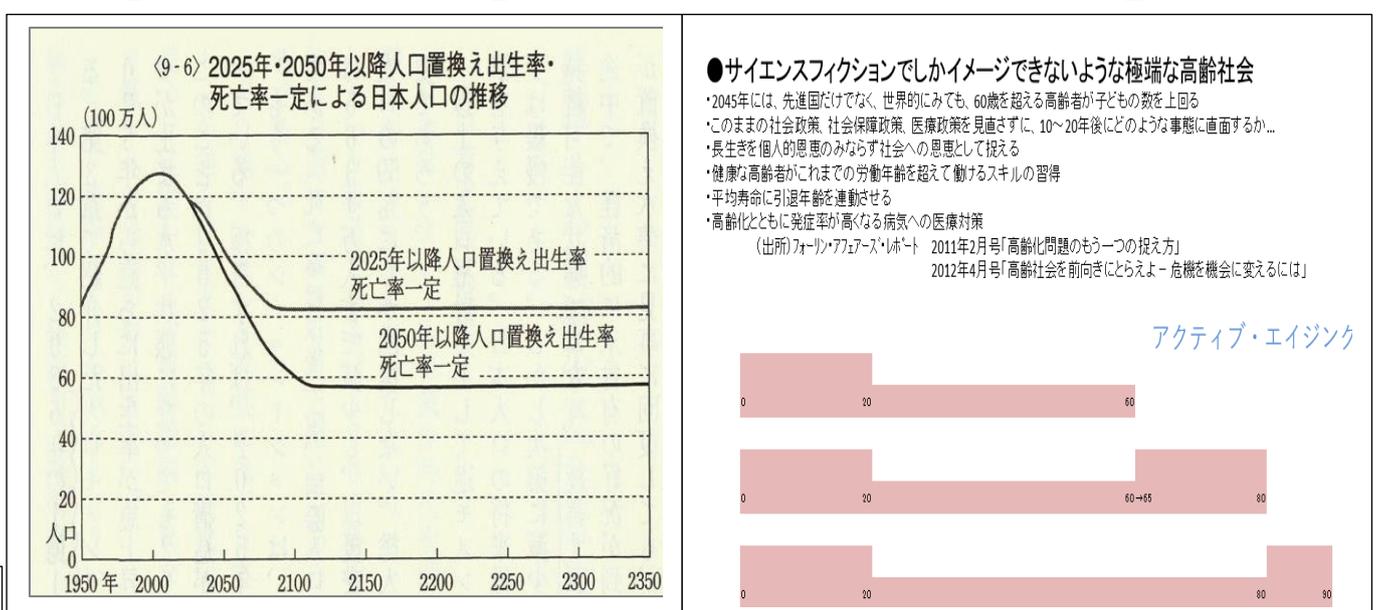
(3) 未来想定

おちたかお政策研究会勉強会講演 2012/2



(4) 理想共有 おちたかお政策研究会勉強会講演 2012/2

F P 勉強会講演 2012/5



(1)現状直視

- ① 人口減少高齢化 生活依存化→財政破綻、人口崩壊、地方崩壊
- ② グローバル化 経済小国化→安保喪失、資源枯渇、国際的孤立
- ③ 政治不信 政治不在化→統治機能喪失

(2)成功への確信

財界、官界、政界などのリーダー層の9割以上は、
「日本は一度破綻しないと治らない」と思っている...らしい

手本のない領域

(3)発想の転換

- ① 20世紀型 → 21世紀型
- ② 帝国主義 → 資本主義 → ○○主義
- ③ 軍事力 → 経済力 → ○○力
- ④ 天皇主権 → 官僚主権 → ○○主権
- ⑤ 後発先進国 → 先発新興国
- ⑥ 問題解決型 → 理想実現型

14

(4)2050年の国家像のイメージ (素案)

絆と歴史をカに、
ライフスタイルを世界に！

- 経済 成長ゾーンの経済力をテコに競争力を堅持
経済規模縮小は前提
- 財政 債務削減、収支均衡
- 国土利用 グローバル化ビジネスに対応する「出島」の創設
「海の国」と「山の国」の連合体
- 国と地方 道州制などで、地域ごとの自立を実現
- 生活 家族や地域を基盤とした穏やかな生活
- 社会保障 自助自立を基本とし、異常事態にのみ制度が対応
- 人口 合計特殊出生率2.1以上で、人口崩壊を回避
- 文化 日本人の生活文化・伝統文化を徹底的に尊重
“ライフスタイル・ショーケース日本”
- 食糧 完全自給
- エネルギー 完全自給
- 安全保障 自主防衛を基本に、覇権国と必要に応じて連携
- 外交 国際社会に発言力を維持

(6) 発想の転換

○人口減少高齢化を踏まえた発想転換

- 「少産社会」 → 「多産社会」
- 「公助社会」 → 「自助共助社会」
- 「60代引退社会」 → 「80代現役社会」
- 「歳出ありき財政」 → 「歳入ありき財政」
- 「国土の均衡ある発展」 → 「多極集中型発展」

○グローバル化を踏まえた発想転換

- 「食糧資源輸入国家」 → 「食糧資源自給国家」
- 「一国平和主義」 → 「自衛国家」
- 「自家標準」 → 「国際標準」
- 「ものづくり大国」 → 「ソフトパワー大国」

○政治不信を踏まえた発想転換

- 「一年交代の政権」 → 「長続きで有能な政権」
- 「高齢者中心型政治」 → 「全世代参加型政治」
- 「与えられた憲法」 → 「つくり上げた憲法」

3. 具体的戦略



(1) “アベノミクス” 7段活用

- ◎2012年 三党合意
 - ・社会保障と税一体改革
- ①2013年 アベノミクス 3本の矢
 - ・金融緩和 ・財政出動 ・構造改革
- ②2014年 人口一億人
 - ・一億人の安定した人口構造 ・人口急減克服＝地方創生 ・女性活躍
- ③2015年 一億総活躍社会
 - ・GDP600兆円、希望出生率1.8、介護離職ゼロ ・成長と分配の好循環
- ④2016年 働き方改革
 - ・働き方改革
- ⑤2017年 生産性向上
 - ・生産性革命 ・人づくり革命
- ⑥2018年 人生100年時代
 - ・マルチステージライフ（＝転職時代）
- ⑦2019年 Society 5.0
 - ・第四次産業革命 ・データ駆動型社会
- (?)2020年 全世代型
 - ・全世代型社会保障／就業機会／学習機会／健康管理／資産管理

財政×経済

経済

人

経済×人

時間／人

生産性／時間

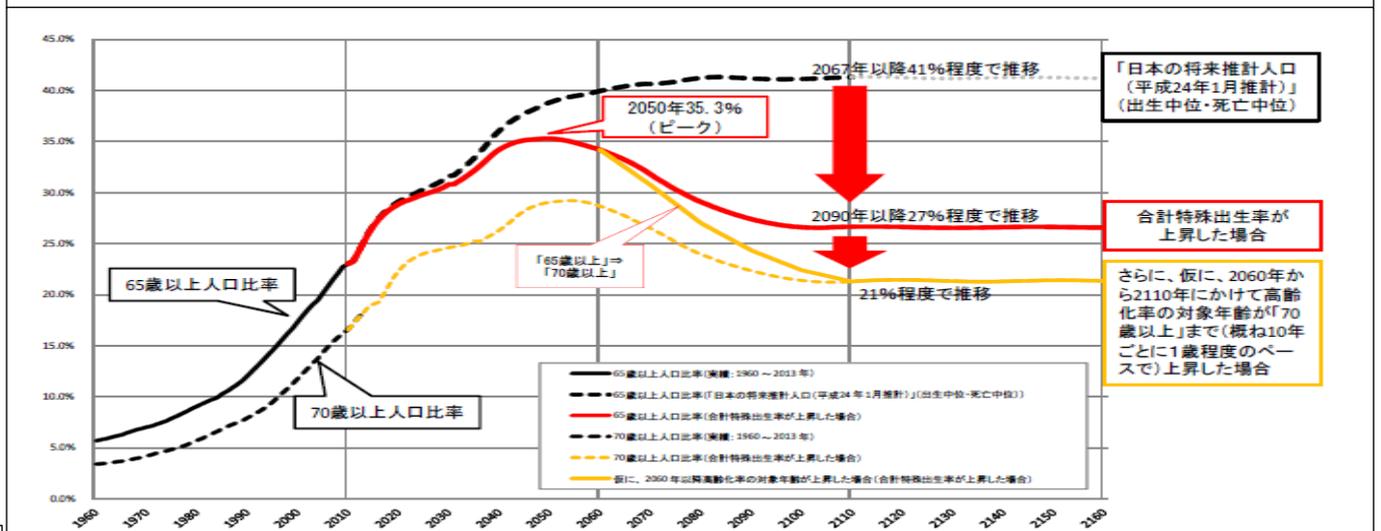
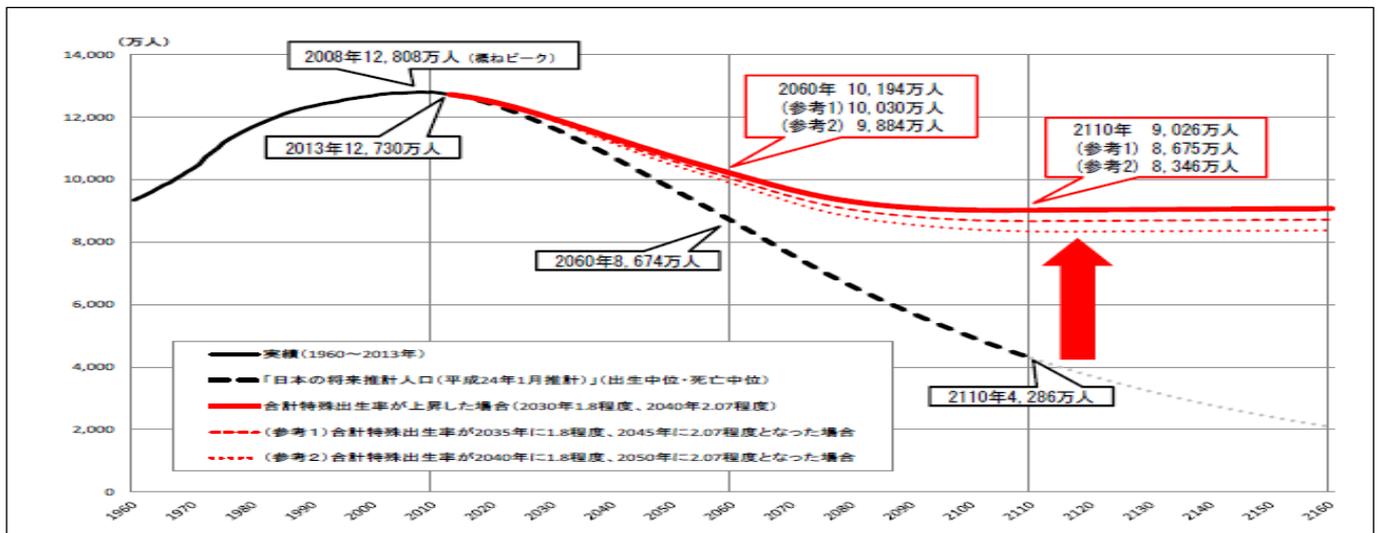
時間／人生

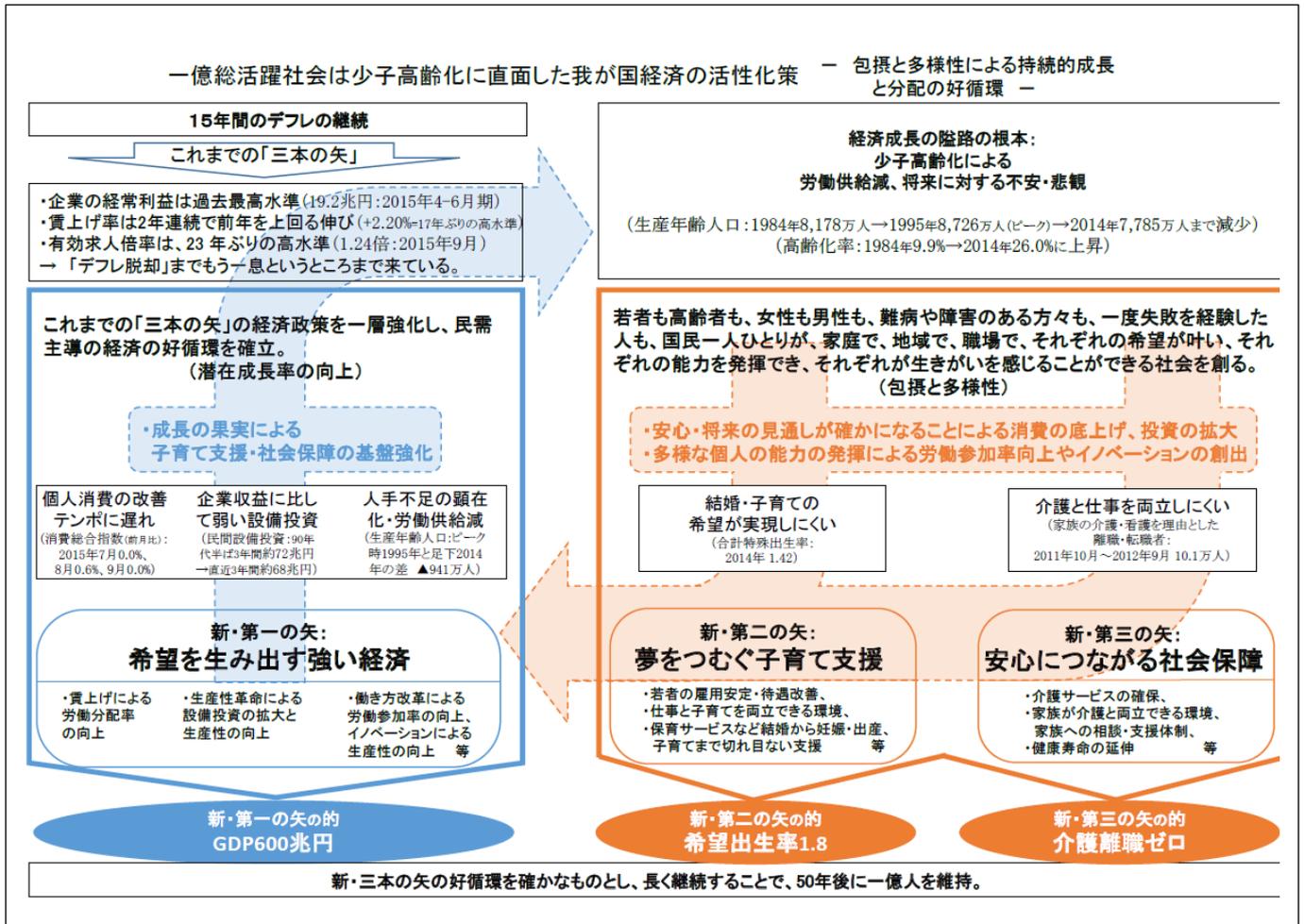
生産性／社会

安心／人生 ?

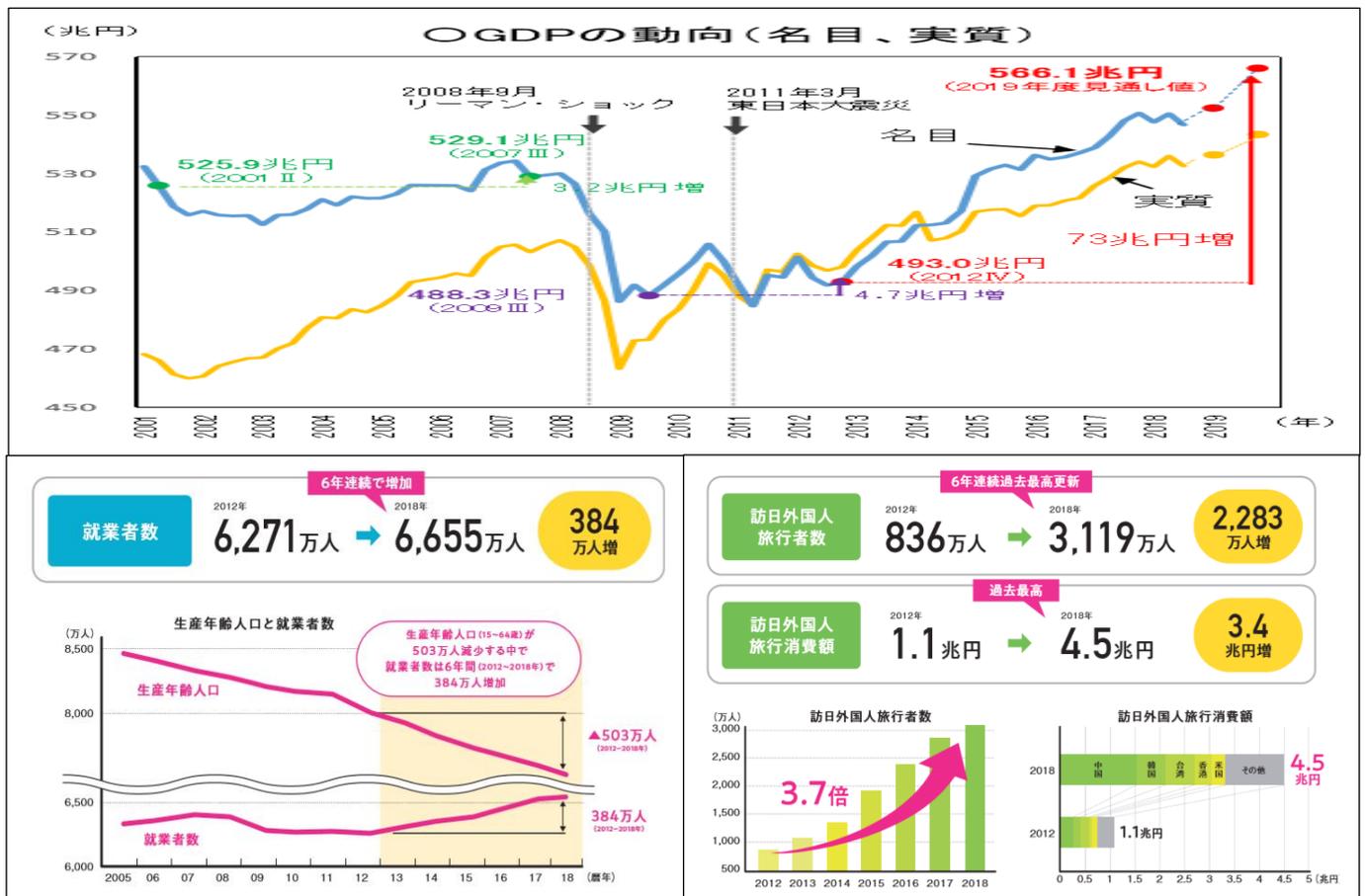
(2) “人口一億人”

まち・ひと・しごと創生総合戦略 2014/12/27





(4) 実績



4. 評価と課題

(1) 安倍政権 7 年

① “2050 年国家像” と “アベノミクス” … 国家経営戦略の収斂／アベノミクスに一定の評価

②アベノミクスの課題

- | | | | |
|------------|--------|-----------|-------------|
| 1) 金融政策 | 長期化・出口 | — | 物価⇔金融政策 |
| 2) 出生率 | ピークアウト | “小人口国家” | 出生率⇔所得／外国人材 |
| 3) 地方創生 | 東京一極集中 | “地方崩壊” | 東京入超 |
| 4) イノベーション | 遅々と進む | “ガラパゴス国家” | 中途半端規模国 |

③危機感の欠如 ← 検証・修正 not 積極的

- 1) 国家の存続に関する危機感がない… 世界一歴史が長い国 “皇紀 2679 年”
- 2) 安保主権… 戦争で負けた経験がない／近隣に脅威 ← 日米同盟
- 3) 財政主権… 外国からお金を借りる必要がない ← 対外純資産←貿易収支・所得収支
- 4) 日本の評価 (+) 社会安定 2016～2017 & 2018～ (-) 経済成長 2017～2018

(2) 長期的視点

人口減少高齢化／GDP・GDPシェア… ①not 危機 but 失敗? ②責任者?

(3) 統治機構

①国家経営に関する関心

- 1) 官僚 タコつぼ式、横ぐしなし、思考回路固定化／「政治的に無理」／指示待ち in 長期政権
- 2) 政治家 横ぐし&政治的解決 by 政治家役割／関心希薄／選挙至上主義／「まず議席ないと」
- 3) 大臣 議員が大半 in 議院内閣制／選挙至上主義(部分最適)
- 4) 党 地方議員・地方組織／代弁機能／議席至上主義／多数の選挙強いと少数の政策強い
➡ 代弁 (陳情) →部分最適→部分代弁 vs 部分代弁 ボトムアップ… “情緒の政治”
経営 (戦略) →全体最適→説明・説得 トップダウン… “論理の政治”

②社会構造と意思決定

- 1) 資本主義／社会主義／社会主義的資本主義
- 2) 企業 in 米／国家 in 中国／規範 in 欧／国民 in 日本… “国民＝最高権力者” を実現

③首相リレー論／首相公選制

(4) 展望

①戦略の立案…課題解決型 not 理想実現型／右肩上り型 not 先行き不透明型

／フォーキャスト型 not バックキャスト型／新興国型 not 成熟国型

7／成功体験継承型 not 新領域挑戦型

②政策の方向性…「テクノロジーとトラディション／Technology & Tradition／T&T」

③意識の改革… “楽観論” このままでいい／ “経営論” 未来の危機に、現在対応…